

ニュースレター



NPO法人 家庭的保育全国連絡協議会

13号 2012. 7.18

☆ はじめに ☆

NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会理事長 鈴木 道子

散歩中の色鮮やかな紫陽花に心がなごみ、♪♪ピッチピッチ、チャプチャプ、ランラン♪♪と、子どもと一緒に歌った童謡「あめふり」、でんでんむし探し、そして、梅雨の合間の水遊びなど、梅雨とは言え、楽しいことが多い子ども達との遊びでしたが、季節はすっかり移り変わり、本格的な夏日到来ですね。

皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年も子ども達の遊ぶ笑顔と楽しそうな声に元気を貰い、熱中症や夏かぜなど夏の病気にも気を付けながら、節電対策にも協力し、みんなで暑いこの夏をのりきりたいですね。

さて、3月に家庭的保育の安全ガイドラインを策定しましたが、家庭的保育者からは、『気持ち引き締まった』『保育を始めるにあたり、不足の物に気づく事ができた』『わかりやすく使いやすい』などの感想が寄せられました。

また、行政の方からは『家庭的保育者の支援を行う上で役立てていきたい』『早速家庭的保育者に発信、今後の保育の中で活用します』など、高い評価をいただきました。今後は、家庭的保育の安全ガイドラインが、私たち家庭的保育者に確実に浸透していくように、さらに活動を広げていきたいと思えます。

6月時点での当協議会の会員数は320名を超えました。全国各地から、また、従来の居宅で保育を行う個人型以外の形態の保育者の入会も増え、家庭的保育事業が着実に広がっていることを感じています。会員が全国に広がったことにより、お互いにお顔を知らない会員も多くなってきました。家庭的保育者が不安なく毎日の保育を楽しく行えるようになるためには、交流の機会を増やし、同じ保育をするもの同士心を通わせあいながら、安全や質の向上への意識を高めていくことも必要だと感じています。今年度は、会員交流にも力を入れていきます。多くの皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

当協議会は、家庭的保育の良さ、更なる保育の質の向上を目指して活動して参りますので、今年度も皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

☆目次

1P はじめに	10P おすすめ絵本⑧
2P~3P 安全ガイドライン策定事業最終報告	11P~13P 事務局だより
4P~6P 総会・セミナー報告	・新情報連絡会 ・いっしょにあそぼ開催募集
7P~8P 地区いんぷおめーしょん	・会員交流会 ・緊急学習会案内 ・会員募集
9P 私の保育⑧合研案内	・現任研修案内

平成 23 年度独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
家庭的保育の安全ガイドライン策定事業報告

昨年度、本協議会で取り組んだ、「家庭的保育の安全ガイドライン策定事業」は全国 4 カ所で開催されたワークショップを経て、参加していただいた家庭的保育者、家庭的保育補助者、家庭的保育支援者、行政担当者など多くの皆様に参加とご協力をいただきました。

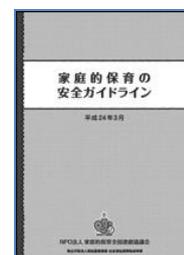
「家庭的保育の安全ガイドライン」は、1000 部作成し、書式等のデータの入った CD と共に家庭的保育者、実施自治体、関係団体、研究者、支援者等に配布しました。

3 月には、完成したばかりの家庭的保育の安全ガイドラインを使って、「安全講習会」を開催しました。この安全講習会では低年齢児をお預かりしている家庭的保育者にとって重要な「乳幼児突然死症候群と乳児窒息死」を取り上げました。当日は、家庭的保育者、保育補助者、保育支援者、保育関係者など 49 名の参加があり、日頃の保育の見直しや、振り返りが出来、特に家庭的保育を始めて間もない保育者や、これから始めようという方にとっては貴重な研修の場になり、多くの質問も出されました。

この安全ガイドラインをベースとし、自分の保育室の実情に合った自分のガイドラインを作り上げていく必要性を再認識しました。

「家庭的保育の安全ガイドライン」は、すでに皆様のお手元に届いていることと思いますが、当協議会のホームページからどなたでもダウンロードできるようになっていますので、ご活用ください。

<http://www.familyhoiku.org/>



安全講習会アンケート結果

参加者数： 49 名 回答者数： 42 名 回答率： 89%

<安全講習会に参加した感想を一言で> 抜粋

・健康観察表の大切さがよく解った。ぜひ活用したい。
・ S I D S についてよくわかって良かった。
・身の引き締まる思いがした。
・安全以上に大切な事はない。

<他に最低限含める方がよいことなどあればご自由にお書きください> 抜粋

・異常事態にどう対応したか具体的事例の紹介など。
・各保育室の工夫や事例など具体的に話し合えると、聞くだけでなく行動に移していける。

家庭的保育の安全ガイドライン配布受領後の評価シート集計結果

設問1 「家庭的保育の安全ガイドライン」は参考になりましたか。

家庭的保育者	総数 49	とても参考になった 43	やや参考になった 3	あまり参考にならなかった 3	無回答 2
行政関係	総数 44	とても参考になった 34	やや参考になった 6	無回答 4	
その他	総数 3	とても参考になった 3			

設問2 参考になった項目(上位3番まで)

家庭的保育者	Ⅳ防災・防犯・緊急時対応	Ⅱ安全に過ごすために	Ⅲ健康に過ごすために
行政関係	Ⅳ防災・防犯・緊急時対応	Ⅱ安全に過ごすために	Ⅰ基本的事項
その他	Ⅱ安全に過ごすために		

設問3. 感想やご意見などご自由にお書きください。(抜粋)

<家庭的保育者>

・項目ごとにわかりやすく書かれているので見やすかったです。CDのなかの資料もコピーして使わせてもらいます。
・この安全ガイドラインは補助者の方も含めいつでもみんなが活動できる場所に置きたいです。
・今まで巡回指導の少ない中で保育だったので、自分の保育の見直しが出来ました。今後も活用します。
・市の家庭的保育のモデル事業から本事業になり、2年目を終えようとしています。この2年大きな事故を起こすことなく過ごすことが出来ました。ちょっとした心のスキが大きな事故につながったり、また昨年は大きな災害も起こりました。このガイドラインを送って頂いたことで、再び気持ちを引き締めて3年目のスタートを切れそうです。

<行政関係者>

・広範囲にわたり、具体的に記入例もあり家庭的保育者の研修でも使わせていただきます。
・家庭的保育の安全管理については、保育所保育を参考にし研修指導をしていますが、家庭的保育の安全ガイドラインが作成され、再確認しました。今後の研修に利用するなど検討したい。
・乳児の安心・安全の保育を長年に渡り行ってきた当市の経験値を記録とし、今後の安全対策の改善に向けて文章化しているところです。大いに活用させていただきたいと考えています。
・保育を柔軟に対応できるのが家庭的保育の特徴でもあります。基本に立ち返って確認・検討等する際に、項目が分かりやすく、具体的なので参考になります。
・地域に情報発信する事、あえて、SIDSについて保護者に伝え協力を得ること、屋外における事故予防など参考にさせていただきます。

担当 鈴木桂子

第5回通常総会開催

第5回通常総会を、5月20日(日)午前10時30分より、横浜市社会福祉センターにおいて、開催いたしました。定款の規定通り、有効出席者数が正会員の過半数に達しましたので適法に成立いたしました。

〈審議事項〉	第1号議案	平成23年度事業報告
	第2号議案	平成23年度会計収支報告 (社会福祉振興助成事業報告)
	第3号議案	平成24年度事業計画案
	第4号議案	平成24年度収支予算案

上記4項目を審議した結果、第2号議案「平成23年度会計収支報告」について、「義捐金寄付金」の金額と、会計ソフトの金額について質問があり、また第4号議案「平成24年度収支予算案」で印刷費について質問がありました。担当者の説明によって了承され、審議事項であった議案についてすべて承認、可決いたしました。

正会員の皆さまにはご多用中のところ、出席いただきご協力ありがとうございました。平成24年度は、「家庭的保育の質の向上(安全で安心な家庭的保育)」「会員交流と連携」を事業実施の方針として活動します。昨年度「家庭的保育の安全ガイドライン」を策定しました。これを基本として安全で安心な家庭的保育を徹底、充実させること。会員が増加していることから会員間の横のつながりを深め、ネットワークの強化を図ること。その為に新情報連絡会をもとに活動し、会員交流会も開催します。

今後とも会員の皆様をはじめご支援いただきます多くの方の参加、協力によって活動をしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

事務局 水嶋 昌子

平成24年度 家庭的保育全国連絡協議会セミナー
深めよう！保育者同士のつながり
—地域や形態を越えて—

総会終了後、13時から16時まで、家庭的保育全国連絡協議会セミナーが開催されました。北は北海道札幌市から南は四国の愛媛県まで、全国各地から家庭的保育者、行政担当者、研究者、家庭的保育支援者やマスコミ関係など、計96名の皆様にご参加いただきました。

セミナーでは、平成23年度に少子化対策会議で決定され、法案成立に向けて動き出した「子ども・子育て新システム基本制度」について、理解を深めました。また従来は、居宅を中心に実施されてきた家庭的保育が、現在では様々な類型で実施され、各々でどのような保育がなされているのかを知ることができました。今後新システム導入で家庭的保育がどのように変わっていくのか、会場からも質問や、切実な意見が出されました。

■基調講演 『子ども・子育て新システムと家庭的保育事業』

厚生労働省雇用均等・児童家庭局
保育課 課長補佐 鈴木 義弘 氏

鈴木課長補佐には、『子ども・子育て新システムについて』という、35ページに亘る資料を基に、子ども・子育て新システムの概要並びに国会で審議される子ども・子育て支援法案等についてご講演いただきました。

新システムは、すべての子どもへの良質な成育環境を保障し、子ども・子育て家庭を、社会全体で支援していくことを目的として立案されたものであること、主な内容である、○総合こども園の創立 ○小規模保育、家庭的保育など多様な保育の充実による保育の量的拡大、待機児対策について ○地域型保育給付の創設など、指定制度と給付システムについてなどを説明されました。

会場からは、新システム導入により、家庭的保育の利用児童がどう変わるか、課税などに関する質問も出されました。

■シンポジウム 『小規模保育における家庭的保育のこれから』

今年も本協議会理事・澁谷昌史（関東学院大学准教授）のコーディネートのもと、5名のシンポジストをお迎えしました。

5名の皆様が各々、①この保育を始めたきっかけ・目的 ②保育の体制・特徴 ③この保育の良さ ④困っている事などを、まず発表されました。

滋賀県草津市の居宅型家庭的保育者 西村理恵子氏は、草津市の受け入れ人数が3名までとなっている理由や地域の方々の支援について、事務処理と家庭の両立の悩みについて、北海道札幌市の居宅型家庭的保育者 小林泉氏は、家庭的保育者の質の向上をめざし勉強会や情報交換の実施、自己研鑽の必要性と事業主としての経理事務作業の大変さなどを述べられました。また、東京都文京区の個人型家庭的保育者の 内山史羊子氏は、保育者2名が1つの住宅を利用して行う保育の様子、家庭的保育の認知度と需要の低さによる受託の不安定さと休暇取得の難しさを述べられました。東京都世田谷区の保育所実施型の実施園園長である 菊地せい子氏は、家庭的保育者6名での保育の様子や、本園の看護師や栄養士など専門職の活用、働く母親の子どもを預かるには給食提供が課題であることを述べられました。そして、神奈川県横浜市の法人委託型家庭的保育事業の受託団体理事長 友澤ゆみ子氏は、同法人運営の連携保育園との交流及び給食提供などの協力体制の紹介、家庭的保育がいまだに認可園に入るための待合室になっていると感じる現実を訴えられました。

それぞれ大変な面を抱え日々保育されているものの、5名の方々が共通して述べられたのは、少人数できめ細やかな保育ができる喜びと、それが保護者との信頼関係を深めているという、自信になっていることでした。会場からは、労働条件や補助者の確保及び事務処理の問題などシビアな質問が出されました。

遠藤 光枝

◆セミナー参加の感想 ①

川崎市家庭的保育者 依田 由美

今年4月より川崎市で居宅型保育室を開室いたしました。まだ家庭的保育者としては駆け出しですが、すでに家庭的保育の現実に困惑し、難しさを抱いていた時にセミナーに参加出来たことはよかったです。

他の家庭的保育者の保育について話を聞くことができ、自分の保育の参考になりました。

また、いろいろな形態の家庭的保育についても知ることができました。

日本各地でたくさんの家庭的保育者が日々奮闘されていることを実感出来、自分の励みになりました。

◆セミナー参加の感想 ②

大田区巡回指導員 高松 美紀

巡回指導員になり2年目を迎えます。

以前は保育園に勤務し保育をする立場でしたが、今は保育ママさんを支援する立場になりました。仕事をする上で戸惑いもあり、少しでも余裕をもって仕事に取り組むたいと考え、セミナーに参加しました。

シンポジウムでは、発表者の皆さんから「こんな保育がしたい」という家庭的保育に対する熱い想いと実践の喜びが語られ、訪問先の保育ママさんを思い浮かべながら聞かせていただきました。

各自自治体で制度は多少異なりますが「子どもの幸せ」を願い、保育にあたる保育ママさんの姿は、共通であると感じます。他に、手作り玩具の紹介もあり、会場は子どもに対する想いで溢れている～そんな印象を受けながら、「少しでも保育ママさんの力になれるよう努力していきたい」そう思えるセミナーとなりました。

◎ アンケート報告 ◎ 回収数 54

1. 基調講演「子ども・子育て新システムと家庭的保育事業について」

- ① 大変良かった 7名 ② 良かった 16名 ③ 普通 12名
④ 物足りない 17名 ⑤ その他 1名 ⑥ 無記入 1名

- ・システム内容について理解ができて良かった。新規事業に期待している。
- ・家庭的保育がどう変容するのか、具体的に聞きたかった。 ・難しかった。

2. シンポジウム「小規模保育における家庭的保育のこれから」

- ① 大変良かった 30名 ② 良かった 18名 ③ 普通 2名
④ 物足りない 1名 ⑤ 無記入 3名

- ・いろいろな形態の家庭的保育の話聞き、勉強になった。
(経験の長いパネリストもほしかった。)
- ・保育に取り組む誠実さ、工夫、努力に感動した。家庭的保育の良さを改めて感じた。
- ・問題点について解決策を考える時間がほしかった(問題点がこれから改善されるのか?)
- ・事務的な大変さ、労働管理の話をもっと聞きたい。 以上

※セミナー終了後、民主党・自民党・公明党3党で、子ども・子育て関連修正案が合意され、6月26日衆議院本会議で可決されました。修正案では「総合こども園」創設は見送りとなり、「認定子ども園」を存続・拡充させることなどが決まっています。家庭的保育事業についても規定されていますので、今後の動向を注意深く見ていかなければと感じました。

何はともあれ私たち保育者は、これまでどおり子ども達の幸せを第一に考えて、保育して行きたいものです。

遠藤 光枝



家庭的保育者の人数は？
30名(居宅型 21名
共同型 9名)

受託児童数は 100名
(24年6月現在)

こんにちは 川崎で～す

川崎市は、人口 1425,000 人を超す政令指定都市で、7つの行政区があります。

そして、イタリアの街をイメージして作られたという、若者に人気のラ チッタデラやミューザ川崎シンフォニーホール等がある音楽のまち。

なんでも 20 代の若者が住んでみたい街の第一位にランクインしているとか・・・

また、あらゆる災厄を消除するという関東の名刹 川崎大師もあります。



こんな事してま～す。

いっしょにあそぼ in 川崎

22年度から実施。23年度も 105 名の親子の参加がありました。今年度も開催に向け準備中。

- ◆みんな仲良し
- ◆やる気があり、イベント好き？
- ◆向上心ピカイチ

毎月・情報交換会実施

研修会をしたり、終了後には、飲みニケーション。これが案外勉強になるんですヨ。



楽しい研修旅行

他市の保育室や防災センター見学など。そして夜の宴会は大盛り上がり、女優も顔負けの役者揃い。



保育室間の交流

地区の保育室と一緒に芋堀や遠足などを実施。

「だっこ」の発行

年1回、子育て家庭向けに、家庭保育だより「だっこ」を発行。



川崎市の保育者が
恵まれていると思う
ところは？

補助者雇用が保障されている。

3人以上の受託があれば、月170時間
の補助者雇用が予算化されている。
(共同型は月120時間)



認可保育所との連携保育制度が
充実している。

居宅型家庭的保育者の健康診断及
び研修、休暇取得時に受託児は連携保
育所で保育する制度ができている。
(共同型は、有資格の補助者雇用で対
応)

また、最低月1回実施の同年齢クラ
スでの交流保育は、園児や保育所の先
生と仲良しに！

栄養士、看護師の先生にいろいろ相
談もしています。

様々な費用の予算化がなされてい
る。

- NPOの団体保険加入費用の負担
- 健康診断費用の一部負担
- 基礎研修及び、NPO主催の現任
研修受講費用の負担、及びそれ
に伴う旅費の一部負担など。

ありがとう
川崎市

◆年1回、市主催で連携保育
所の園長・家庭的保育者、
各区の担当者が集まって
情報交換。
とても有意義！！

ここが凄い
ベスト6

レベルアップ
間違いなし！

市が「いっしょにあそぼ」の開催に
協力してくれる。

- 毎日、子ども達の笑顔に囲まれて幸せ。
- 川崎は素敵な保育者が揃っていると思う。
集まれば笑顔で楽しい会話が止まらない。
- 保育に対する熱い情熱、向上心がピカイチ。
- 川崎市家庭保育福祉員協議会は、保育者の
命綱。定例会で保育の悩みを相談できる。
- 団結力が強く、全員がNPOに加入している。
- 定例会とその後、命のリフレッシュ！
楽しい会話で、また明日からの保育を頑張
ろうと思える。



研修旅行では、ハンドベルの練習、
グループ毎の発表会もしました。

「出会いを大切に～私の保育」

藤沢市家庭的保育者 和田 朝美

3人の息子を育てた経験しかない私が、藤沢市の事業に参加させて頂き、出会ったたくさんの先生方に助けられ今日までできています。

のどかな風景の中、鳥のさえずりを真似して歩き、子どもに見つかった蟻が小さな指から逃げ回っています。～おててつないで、野道をゆけば～子どもの歩幅で歩く幸せなひとときです。子どもが見ているその時を、上手に拾い広げてあげられたらと思っています。

私はお迎えに来る保護者の優しい眼差しが大好きで、美しい表情に心が癒されます。素直に笑う子どもの顔が反射して、温かい笑顔が私の方向から見えます。泣いたり笑ったりしながらご機嫌な一日を過ごし、保護者にお返しする時、私も満たされた気持ちで仕事を終えることができます。

子どもの発達の過程を大切に、常に知識を高め、命を守るために、まず自己管理に努めなければならないと思っています。先輩の先生や行政の方々のご指導に感謝し、季節を体感しながら、心のどこかに何かが残ってくれたらと願い、ひとりひとりとの出会いを大切にしていきたいと思っています。



☆合研 in 兵庫で、「私の保育」を話し合しましょう！

8月18日(土)～20日(月)まで、全国保育団体合同研究集会 in 兵庫が開催されます。この集会には、全国各地の保育者や保護者、研究者など約一万人が参加し、基礎や実技講座で学んだり、分科会で研究発表される、保育の現状や問題点などについて意見交換します。

19日(日)神戸学院大学<有瀬キャンパス>で開かれる、家庭的保育の分科会では新宿区の田口いづみさん、草津市の辻本隆代さん、大津市の加藤ひとみさんが、補助者雇用や定員確保対策、行政との連携などについて発表されます。世話人は、元天理大学准教授の上村康子先生です。全体会の記念講演は、作家の落合恵子さん。

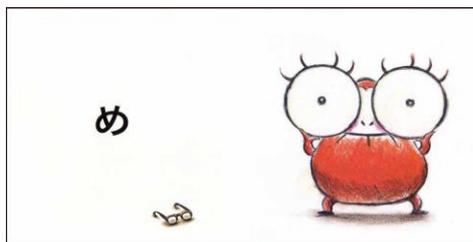
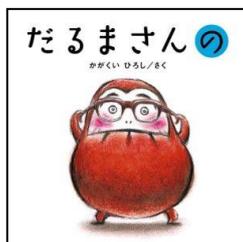
皆さん、ぜひ『家庭的保育の現状と課題』分科会 31にご参加下さい！保育のうれしい話や悩みなど、何でも話し合しましょう～18日(土)夜の交流会も、楽しいですよ！

お申込みは、合研案内チラシ(5月に送付済)に掲載の各都道府県窓口まで。詳しくは、合研担当までお問い合わせください。

高槻 由美子 (fax03-3921-2241)

◆笑顔になる一冊

川崎市家庭的保育者 杉山 直美



保育室の中で子どもたちが大好きな絵本は、「だるまさん」シリーズです。朝“おはよう”の挨拶と共に、だるまさんの絵本を持ってきます。その中でも『だるまさんの』が一番人気です。だるまさんの“め”だったり、“て”だったり、ユニークなだるまさんが大好きです。最後のだるまさんの「“お” あったっけ？」では、思わずお尻を確認。泣いてる子どもたちも思わず笑顔になる一冊です。(かがくいひろし/さく ブロンズ新社)

◆私の保育室での絵本

相模原市家庭的保育者 北浦 三枝子

毎日の保育の中で、絵本は切り離せない保育アイテムになっています。朝、登室して「おはよう」の挨拶と同時に本棚から絵本を取り出し、「読んで…」と保育者の膝に座ってきます。休み明けの空白をうめてくれ、互いの気持ちを結びつけてくれるような効果があるのか親しみが増し距離が近くなった気がします。地域の図書館に行く時「行くよ～！」と声掛けすると、ニコニコ笑顔で支度を始め「ミーママ！本持った？」など、返す本のチェックをする事もあります。「千と千尋の神隠し」を借りてきた日、おやつの後読み始め「後はまたね」と言うと「もっと…」しばらく読んで、こちらはもういいだろうと思っても「まだまだ」とせがまれて結局全部読み終わりました。

1時間近くもかかる本を3歳近くの子が開けて、興味を示す事ができるものかと感心すると共に心の成長をととても嬉しく思いました。

私たちの保育室がよく利用している子どもセンターで開かれる、ワニーズさんの「布絵本」の催しは、優しさや温かさが溢れ、10畳くらいのお部屋いっぱい並べられた布絵本や布おもちゃ…本当に素敵なのです。触って遊べるので、0歳児もしっかり遊んでいます。

相模原市の「ワニーズ」というボランティアグループの方々の力作ぞろいで、1時間でも飽きずに遊べます。絵本が大好きな子どもになる大きなきっかけの一歩になると私は確信しています。ワニーズさんのホームページがありますので、興味のある方は是非アクセスしてみてください。(「おはなしワニーズ」で検索)



事務局からのお知らせ・お願い



今年度の活動方針は「家庭的保育の質の向上（安全で安心な家庭的保育）」・「会員交流と連携」です。その一つ「会員交流と連携」は会員ネットワークの強化を図り、横のつながりを深めるために昨年度から設けた**新情報連絡会**をもとに活動していきます。

『新情報連絡会に参加お願いします！』

これまで2月12日、3月10日、4月7日の3回新情報連絡会を開催し、以下のことを決めました。

- ・5月20日の総会・セミナーを開催地が横浜であることから横浜市の会員の方にすべて準備、運営をお願いする。
- ・ニュースレターの発行を地域で担当し、その地域での家庭的保育のあり方を伝えるなど地域から発信したニュースレターを作成してみる、まずは川崎市が担当。
- ・会員が北海道から熊本県までと全国各地に広がっているのでブロック分けをして会員がつながりながら活動に関わる。
- ・いろいろな地域でイベントを開催する。

実際に、総会・セミナーを横浜市の会員が準備し、交流会まですべてを担当しました。ニュースレター13号発行にあたっては、川崎市の会員が担当しました。

■横のつながりを深めるための全国10のブロック

- | | |
|-----------------|----------------------|
| A・・・北海道 | G・・・神奈川県川崎市、厚木市、横須賀市 |
| B・・・山形県、栃木県、宮城県 | 相模原市、秦野市、藤沢市 |
| C・・・埼玉県、千葉県 | H・・・静岡県 |
| D・・・東京都23区 | I・・・愛知県、滋賀県、京都市 |
| E・・・東京都多摩地区 | J・・・愛媛県、大分県、熊本県 |
| F・・・神奈川県横浜市 | |

これからどのように活動していくのか、引き続き新情報連絡会で検討しながら進めていきます。メール情報配信でも活動状況をお伝えしていますので、アドレスを登録して頂き、ひとりでも多くの会員が新情報連絡会へ関わってください。

よろしく願いいたします。

水嶋 昌子

『“いっしょにあそぼ！！” あなたの地域で開催しませんか』
～開催する地域を募集します～

当協議会では、平成 21 年より家庭的保育の普及・啓発活動の一環として、毎年“いっしょにあそぼ！！”を開催しています。これまで、年一か所で開催しましたが、今年度は全国 2 ヶ所で開催を予定しています。“私たちの家庭的保育を地域の方に知ってもらいたい。”“こんな保育してますよ！”と PR しながら地域の子どもたちと楽しく遊びませんか。地域の保育者みんなで協力して、やるのも楽しいですよ。今までイベントを行った 3 ヶ所(横浜市、川崎市、厚木市)とも関心が高まり、好評を得ています。

“やってみたいな～”、“やれるかな～”と思っている方、ぜひご連絡ください。

当協議会が開催費の補助、これまでの実施例の資料送付、ニュースレター・HP での広報、おみやげづくりのお手伝い等の応援をします。

関心のある方は、まずはご連絡ください。詳細をお知らせします。

※相談締切日 8 月 10 日(金)

※連絡先 FAX : 045-489-6115 メール : info@familyhoiku.org

担当 鈴木 桂子

『会員交流会の開催について』

今年度から年に 1 度、会員交流会を開催することになりました。新情報連絡会で決まった G グループのうち、小田急沿線グループ(秦野、相模原、厚木)が担当することになり、準備のための会合を開きました。

現時点で決まっている内容をお知らせしますので、ご予約ください。

日 時	平成 24 年 11 月 3 日 (土・祝日)
プログラム	第 1 部 13:00～ 特別講演「絵本を通して伝えたいこと」(仮題) 中川李枝子先生 (「ぐりとぐら」などの児童文学作家)
	第 2 部 15:00～ お気に入りの絵本・読み聞かせなどについてのグループ交流
	第 3 部 17:00～ 親睦会 (会費制 3000 円程度を予定)
場 所	未定 (東京都内 目黒区・大田区などを予定)
参加条件	当協議会会員 (会員種別は不問) 参加料無料
申込受付等	8 月初めに会員に案内を送付後、受け付け開始予定

厚木市 市瀬 多鶴子

「緊急学習会のご案内」

子ども・子育て支援法案、同関係法律整備法案、認定こども園法改正案が衆議院で可決されました。それに関連して、緊急学習会を開きます。

テーマ：「子ども・子育て新システムのねらい」

講師：田村和之先生（龍谷大学 法科大学院教授）

日時：平成24年7月29日（日） 10時～12時

場所：上目黒住区センター 東横線「祐天寺」下車

定員：先着20名 参加料：無料

■申込み方法： FAXまたはメールで 所属、お名前、ファックス番号をお知らせください。

折り返し、会場の地図をお送りします。

■申込先FAX 045-489-6115 メール info@familyhoiku.org

「会員募集中！」

23年度は「安全・安心な家庭的保育」のために、ガイドライン策定などの事業を実施してきました。24年度も引き続き、「家庭的保育の質の向上」と「会員交流と連携」を目的とし、一年を通して活動してまいります。全国各地からのいろいろな意見を基に活動できるよう、一人でも多くの方に会員となっただき、参加・ご協力をお願い致します。

入会はいつでもOKです！入会手続きなど詳細は、ホームページをご覧ください。

「お待ちしております！！」

「現任研修のご案内」

今年も国のガイドラインに基づき、「子ども家庭福祉・保育の幕開け」（最近の児童福祉行政）や「家庭的保育における記録と計画」（家庭的保育の運営・管理）など、保育実践に繋がる現任研修を実施しています。

講座1～3は既に終了しましたが、全国各地から、家庭的保育者、補助者、家庭的保育支援者、行政担当者など、多くの参加がありました。

専門の講師から学び、参加者同士交流することで、スキルアップを図りましょう！

詳細は、ホームページをご覧ください。

■編集後記

*この13号から、地区担当で発行することになったニューズレターの第1回を、私たち川崎市が担当。全保育者の声を集め「地区いんふおめーしょん」を作成しました。初めてのことで四苦八苦もありましたが、わいわいがやがやの編集会議。みんなで協力して作り上げた事により、一層連帯感も湧き楽しい思い出になりました。ぜひ、他の地区の方々も編集してみませんか。

このニューズレター13号は、川崎市のNPO担当者(坂本・長田・依田・杉山・水嶋・遠藤)が担当いたしました。

*今回、ニューズレター13号発行にご協力いただいた皆様に、御礼申し上げます。(遠藤)
